

史料番号	字句	よみ	意味
123	創立被為在候 仁沢 毫毛 御採用被成下候は 已上 試補 保長 御聞届被為下置候は 奮励 奇特 勉励 勉励可致事	段奉拝承候 ソウリツナサレアリソウロウダンハイショウタテマツリソウロウ ジンタク ゴウモウ ゴサイヨウナシクダサレソウロウハバ イジョウ シホ ホチョウ オキキトケナシクダサレオキソウロウハバ フンレイ キトク ベンレイ キンベンシタスベキコト	創立なされたとのこと 承知いたしています 深きめぐみ ごくわずかであること ご採用下されましたら 以上 官庁などで、ある官に任命されるまで、事務の見習いをする者 大区小区制で約50戸を目安に庄屋組頭級から1人置かれ上下の情状を伝達する責務を担った お聞き届け下され置きましたら 氣力を奪い起こして、努め励むこと 心がけなどがすぐれていて、褒めるに値するさま つとめはげむこと 一所懸命に努力すること 勉励致すべしこと
124	請取 脚夫 相違無御座候也 県令	ウケトリ キヤクフ ソウイゴザナクソウロウナリ ケンレイ	受け取ること 荷物の運送などに当たる労働者 郵便配達人の古い言い方 相違ございません 廃藩置県によって県に置かれた長官の呼び名
125	并に 請取 訓導	ナラビニ ウケトリ クンドウ	並びに および また 受け取ること 旧制小学校の正規の教員の称
126	虎列刺病 熾に 虎列羅病 這回 来 可申出候事	コレラビョウ サカンニ コレラビョウ シャカイ キタル モウシイヅベクソウロウコト	コレラ病 盛んに コレラ病 今回 近いうちにくる この次の 申出ること
127	倣ひ 尤も 廻達	ナライ モットモ カイダツ	例をまねて、そのとおりにする ただし 次第に送り届けること
128	購求 夥多 含蓄 比準 勉励 廉 宜 曩に 県令 惣代 仕払 不得止	コウキユウ カタ ガンチク ビジュン ベンレイ カド ウベ、ムベ サキニ ケンレイ ソウダイ シハライ ヤムヲエズ	買い求めること 購入 物事が多すぎるほどあること おびたしいさま 内に含み持っていること あるものを基準にしてそれにならう つとめはげむこと 一所懸命に努力すること 特に取り上げるべき事項・箇所 もつとも いかにも 以前から 前から 廃藩置県によって県に置かれた長官の呼び名 総代 その関係者全員を代表する人 支払い しかたがなく どうしようもなく
129	聯合 則 評決 朱書 困弊 殊に 旁 差支 廉 県令 俸給 小使 勉励	レンゴウ スナワチ ヒョウケツ シュガキ コンヘイ コトニ カタガタ サシツカエ カド ケンレイ ホウキユウ コヅカイ ベンレイ	連合 つまり 評議して決めること 議決 あとで書き加えた注意書き 民衆などが、苦しみ疲れること とくに 方々 支障 特に取り上げるべき事項・箇所 廃藩置県によって県に置かれた長官の呼び名 給料 公務員に支給される、諸手当を除いた基本的給与 用務員 つとめはげむこと 一所懸命に努力すること
130	聯合 原按 権衡 顕然 旁ら 差支勿らしむる	レンゴウ ゲンアン ケンコウ ケンゼン カタワラ サシツカエナカラシムル	連合 原案 つりあい 均衡 明らかなさま 主となることをする一方 差支え(支障)ないようにさせる

史料番号	字句	よみ	意味
	挙	キョ	行動 振る舞い くわだて
131	賦課 否 曾て 旁以って	フカ イナ カツテ カタガタモツテ	租税などを割り当てて負担させること いや 以前から 前から いずれにしても どっちみち
132	曾て 撰挙 愈々 不日 痛論 聯合 拘はらず 兎角 当撰 飽迄 勿論 終に 素願 遂ぐる 賀筵	カツテ センキョ イヨイヨ フジツ ツウロン レンゴウ カカワラズ トカク トウセン アクマデ モチロン ツイニ ソガン トグル ガエン	以前から 前から 選挙 いよいよ 日数をあまりへないこと すぐであること 手厳しく論じること 連合 …であるのに ややもすると 何かと 当選 どこまでも 断固 言うまでもなく ついに 平素からの願い 遂げる 祝賀の席
133	濫觴 原ぬれば 殆ど 文化年間 雅楽頭 河合隼之助 建議 歳旦 五節句 爾来 絶止 企図 愈 完からず 隆盛 狭隘 段 畝 歩 卅 迎ても 竣成 間	ランショウ モトメヌレバ ホトンド ブンカネンカン ウタノカミ カワイハヤノスケ ケンギ サイタン ゴセツク ジライ ゼッシ キト イヨイヨ マツウカラズ リュウセイ キョウアイ タン セ ブ サンジュウ トテモ シュンセイ ケン	物事の起り 起源 求めたならば ほぼ だいたい 1804年～1818年 姫路藩酒井家の官職 河合寸翁 意見を申し立てること 1月1日の朝 元旦 年間の五つの節句 人日(じんじつ1/7)・上巳(じょうし3/3)・端午(たんご5/5)・七夕(しちせき7/7)・重陽(ちようよう9/9) それ以来 途絶える あることをくわだてること いよいよ 完了していない 勢いが盛んなこと 面積などが狭くゆとりがないこと 土地の面積の単位 1町の10分の1 1段は99.174平方メートル 土地の面積の単位 1段の10分の1 1畝は99.174平方メートル 土地の面積の単位 普通は6尺四方をいい、約3.3平方メートル 30 とうてい 大規模な建築物などができ上がること 竣工 長さの単位 1間はふつう6尺(約1.82メートル)の長さ
135	仮用 狭隘 卅	カヨウ キョウアイ サンジュウ	かりて用いること 面積などが狭くゆとりがないこと 30
136	周旋 爾後 受託 諾す	シュウセン ジゴ ジュタク ダクス	事をとり行うために動きまわること 面倒をみること それ以来 以後 頼まれて引き受けること 他人からの頼みなどを承知する 承諾する
137	庫裏 仮用 廿 町 坪 卅 畝 歩	クリ カヨウ ニジュウ チョウ ツボ サンジュウ セ ブ	寺院で住職やその家族の住む場所 かりて用いること 20 距離の単位 1町は60間で、約109メートル 土地の面積の単位 1坪は6尺平方で、約3.3平方メートル 30 土地の面積の単位 1段の10分の1 1畝は99.174平方メートル 土地の面積の単位 普通は6尺四方をいい、約3.3平方メートル
138	仮用 委托 坪 畝 歩 廿 地均	カヨウ イタク ツボ セ ブ ニジュウ ジナラシ	かりて用いること 委託 人に頼んで代わりにやってもらうこと 土地の面積の単位 1坪は6尺平方で、約3.3平方メートル 土地の面積の単位 1段の10分の1 1畝は99.174平方メートル 土地の面積の単位 普通は6尺四方をいい、約3.3平方メートル 20 地面の高低やでこぼこをなくし、平らにすること
139	委托	イタク	委託 人に頼んで代わりにやってもらうこと

史料 番号	字句	よみ	意味
	余業 因て 岐る 篤志 茲に 庫裏 仮用 敷からざる トし 間 悉皆	ヨギョウ ヨリテ ワカル トクシ ココニ クリ カヨウ スクナカラザル ボクシ ケン シッカイ	本業以外の仕事 よって 分かれる 志のあつこと 特に、社会事業や公共の福祉などに熱心に協力すること ここに 寺院で住職やその家族の住む場所 かりて用いること 少なくない 選び定める 長さの単位 1間はふつう6尺(約1.82メートル)の長さ 残らず 全部
140	御真影 下附 奉戴 并に 奉迎 奉送 饗応 煙火 觥力	ゴシンエイ カフ ハウタイ ナラビニ ハウゲイ ハウソウ キョウオウ エンカ スモウ	天皇・皇后の公式の肖像写真 宮内省から各学校に貸与され、校長の責任で厳重に管理、儀式に使用された 役所から下げ渡すこと うやまいいただく 並びに および また 身分の高い人をお迎えすること 身分の高い人をお見送りすること 食事などを出してもてなすこと 花火 相撲
141	勅語 捧読 訓導 肖像 演述 惣代 祝詞 吏員 聯合 概景 郡衙 柝 交叉 供物 通牒 于時	チョクゴ ホウドク クンドウ ショウエイ エンジュツ ソウダイ ノリ リン レンゴウ ガイキョウ ゲンガ タク コウサ クモツ ツウチョウ トキココニ	教育勅語のこと「朕惟フニ我カ皇祖皇宗…」 目の前に高くささげ持って読むこと 旧制小学校の正規の教員の称 現在の教諭 肖像写真 自分の意見・思想を口頭あるいは文書で述べること 総代 その関係者全員を代表する人 儀式など改まった場面で唱える古体の言葉 公共団体の職員 連合 大体のようす 郡の役所 拍子木 交差 一点で交わること おそなえもの 通達の旧称 時刻は
142	廿 勅令 緑門 交叉 球灯 吏員 訓導 勅語 祝詞 准訓導 饗応	ニジュウ チョクレイ リョクモン コウサ キョウトウ リン クンドウ チョクゴ ホウドク ジュンクンドウ キョウオウ	20 帝国議会の協賛を経ずに天皇の大権によって制定された命令 祝賀の際などに建てる、常緑樹の葉で包んだ弓形の門 交差 一点で交わること 丸く小さい提灯(ちょうちん) 公共団体の職員 旧制小学校の正規の教員の称 現在の教諭 教育勅語のこと「朕惟フニ我カ皇祖皇宗…」 目の前に高くささげ持って読むこと 儀式など改まった場面で唱える古体の言葉 師範学校を卒業していなくても就くことができた代用教員 酒や食事などを出してもてなすこと
143	狭隘 交叉 旒 幔幕 御真影 奉掲 奉読 生憎 時雨 驟に 気遣し 拭ふ 茲に 撃柝 風琴 譜 肅々徐々	キョウアイ コウサ リュウ マンマク ゴシンエイ ハウケイ ホウドク アイニク シグレ ニワカニ キヅカイシ ヌグウ ココニ ゲキタク フウキン フ シュクシュクジョジョ	面積などが狭くゆとりがないこと 交差 一点で交わること 旗の垂れのこと 旗の数量呼称 式場などで、周囲に張り巡らす横に長い幕 天皇・皇后の公式の肖像写真 宮内省から各学校に貸与され、校長の責任で厳重に管理、儀式に使用された うやまい掲げること つつしんで読むこと ぐあい悪く 通り雨のように降る雨 突然 急に 気づかう 消し去る ここに 拍子木を打ち鳴らすこと 木槌を打って注意を集めること オルガン 楽譜 おごそかなに、落ち着いてゆつくりと

史料番号	字句	よみ	意味
	満庭 闐 恰かも 肅然 凡て 訓導 勅語 訓諭 祝詞 已来	マンテイ ゲキ アタカモ シュクゼン スベテ クンドウ チョクゴ クンユ ノリト イライ	庭一面 庭いっぱい 静まりかえったさま まるで 静かで行儀正しいさま ある事の全部 いっさい 旧制小学校の正規の教員の称 現在の教諭 教育勅語のこと「朕惟フニ我カ皇祖皇宗…」 教えさすこと 儀式など改まった場面で唱える古体の言葉 以来
144	廿 稍々 拭ふ 宛も 詣し 行厨 塹浦 島嶼 陰見	ニジュウ ヤヤ ヌグウ アタカモ ケイシ コウチュウ 澁浦【タンボ】 トウショ カゲミ	20 すこし 消し去る まるで 寺や神社にもうでる 弁当 船溜り 大小の島々 うすくかげに見える
145	累年 咸な 細民 夥多 鮮からず 勸業 稀なる 廿 訓令 吏員 督責 已むを得ざる事故 廿 県令 爾来 略 狭隘 下付 客年 長上 一朝 闕員 男生 筒袖 兔角 督励 氣象 活潑 奮勉	ルイネン ミナ サイミン カタ スクナカラズ カンギョウ マレナル ニジュウ クンレイ リイン トクセキ ヤムヲエザルコトユエ ニジュウ ケンレイ ジライ ホボ キョウアイ カフ カクネン チョウジョウ イチョウ ケツイン ダンセイ ツツソデ トカク トクレイ キショウ カッパツ フンベン	年を重ねること 年々 皆 貧しい人たち 過多 多すぎるほどあること 少なくない 農業・工業などの産業を奨励すること 非常に少ないさま 20 上級官庁が下級官庁に対して、権限の行使を指揮するために命令を発すること 公共団体の職員 厳しく督促すること 仕方がないことから 20 県知事の発した命令 以来 おおよそ 面積などが狭くゆとりがないこと 役所から下げ渡すこと 去年 昨年 目上のもの わずかな間に 欠員 定員に満たないこと 男子の生徒 和服で、袂(たもと)がない筒形の袖 また、そういう袖の着物 ともすれば 監督し、励ますこと 気質 きだて 勢いのよい 盛んな ふるいたって勉強する
146	師範学校 狭隘 略ほ 見認め 前陳 暁 而して 凡そ 坪 切半 一半 衰頹 敏捷 企望 尤も 難堪 思料	シハンガッコウ キョウアイ ホボ ミトメ ゼンチン アカツキ シコウシテ、シカシテ オオヨソ ツボ セツパン イッパン スイタイ ビンショウ キボウ モットモ ナンカン シリョウ	教員の養成を目的に設けられた旧制の学校 明治5年(1872)設立 のち、高等・尋常 の2種に分け、小学校教員を養成する尋常師範学校をさすようになった 面積などが狭くゆとりがないこと おおよそ 認め 前に述べたこと 実現したその際は そして また それから 大体 土地の面積の単位 1坪は6尺平方で、約3.3平方メートル 折半 半分ずつに分けること 2分したうちの、一方 衰退 勢いや活力が衰え弱まること すばやいこと くわだててその達成を望むこと まったく 困難 思いはかること

史料番号	字句	よみ	意味
	需めん	モトメン	求める
147	狭隘 稟請 朱	キョウアイ リンセイ シュ	面積などが狭くゆとりがないこと 上役や上部機関などに申し出て請求すること 利率の単位 1割の10分の1 分(ぶ)
148	狭隘 多端 因り 佳良	キョウアイ タタン ヨリ カリョウ	面積などが狭くゆとりがないこと 複雑で多方面にわたっていること ～であるから すぐれていること
149	所謂 訓導	イワユル クドウ	世間一般にいう 旧制小学校の正規の教員の称 現在の教諭
150	施行致度候条 稟請 修身	御認可相成度 セコウイタシタクソウロウジョウゴニンカイナリタク リンセイ シュウシン	…を実施致したくご認可くださるよう 上役や上部機関などに申し出て請求すること 旧制の小・中学校の教科の一つ 教育勅語をよりどころとする道徳教育を授けたもの
151	愈々 勅語 捧読 瓶酒 饗応 修養 頗る 坪 因に 記念	イヨイヨ チョクゴ ホウドク ヘイシュ キョウオウ シュウヨウ スコブル ツボ チナミニ キネン	ついに 教育勅語のこと「朕惟フニ我カ皇祖皇宗・・・」 目の前に高くささげ持って読むこと びん詰めの酒 酒や食事などを出してもてなすこと 知識を高め、品性を磨き、自己の人格形成につとめること ととも 土地の面積の単位 1坪は6尺平方で、約3.3平方メートル ついでに言うと 記念
152	坪 合 聘備	ツボ ゴウ ヘイヨウ	土地の面積の単位 1坪は6尺平方で、約3.3平方メートル 尺貫法の面積の単位 1合は1坪の10分の1で約0.33平方メートル 礼をもって雇うこと
153	真最中 至大 并に	マッサイチチュウ シダイ ナラビニ	まっさかり さなか この上もなく大きいこと 並びに および また
154	狭隘 楼上 鼎沸 制せん 袂を列ね 輿論 廿	キョウアイ ロウジョウ テイフツ セイセン タモトヲツラネ ヨロン ニジュウ	面積などが狭くゆとりがないこと 階上 議論が盛んになること 自分のものにする 支配する 人と行動を共にする 世間一般の人の考え 世論 20
155	屢次 凝したる 初志を枉げ 囊に 并に 容れざる 一昨 廿 決答 已に 請願 建議 尤も 起草 囑托	ルジ ギョウシタル ショシマゲ サキニ ナラビニ イレザル イツサク ニジュウ ケツウ スデニ セイガン ケンギ モットモ キソウ ショクタク	たびたび しばしば 一点に集中する 初めに思い立った考えをむりに変えて 先に 以前に 並びに および また 受け入れない 日などで、中一つ置いた前の時 20 はっきりと答えること 前に 以前に こいねがうこと 意見を申し立てること ただし 文案を作成すること 仕事を頼んで任せること 囑託
156	現今 目論見 殆ど 進捗 纏めて 謝絶 建議 因に 紛擾 屢々 局 予て 争たる 御真影	ゲンコン モクロミ ホトンド シンチョク マトメテ シャゼツ ケンギ チナミニ フンジョウ シバシバ キョク カネテ アラソイタル ゴシンエイ	いま 現在 計画 くわだて おおかた はかどること 集めてひとかたまりのものにする 相手の申し入れを断ること 意見を申し立てること ついでに言うと もめごと 紛争 たびたび 情勢 以前から 前から 張り合う 天皇・皇后の公式の肖像写真 宮内省から各学校に貸与され、校長の責任で厳重に管理、儀式に使用された

史料番号	字句	よみ	意味
	奉迎 凡賦課 了て	ホウゲイ オオヨソ フカ オワリテ	お迎える だいたい 租税などを割り当てて負担させること 終わる
157	反別 反畝歩 有姿儘 可受取事 間坪 庇 廁	タンベツ タン セ ブ ユウシノママ ウケトルベキコト ケン ツボ ヒサシ カワヤ	町・反・畝・歩の単位で表した田畑の面積 土地の面積の単位 1町の10分の1 1反(段)は991.74平方メートル 土地の面積の単位 1段の10分の1 1畝は99.174平方メートル 土地の面積の単位 普通は6尺四方をいい、約3.3平方メートル ありのまま 受け取ること 長さの単位 1間はふつう6尺(約1.82メートル)の長さ 土地の面積の単位 1坪は6尺平方で、約3.3平方メートル 建物の窓・出入口などの上部に張り出す片流れの小屋根 のき 便所
158	既記 愈々 坪 悉皆 尺 寸 分 延石 槻材 間 他日 高燥 佳絶 間然	キキ イヨイヨ ツボ シッカイ シヤク スン ブ ノバイシ ケヤキザイ ケン タジツ コウソウ カゼツ カンゼン	すでに記したこと ついに 土地の面積の単位 1坪は6尺平方で、約3.3平方メートル 全部 尺貫法の長さの単位 1寸の10倍で30.3センチ 尺貫法の長さの単位 1寸は1尺の10分の1で、約3.03センチ 尺貫法の長さの単位 1分は1寸の10分の1で、約3.03ミリ 細長い石 櫨(けやき) 長さの単位 1間はふつう6尺(約1.82メートル)の長さ 後日 土地が高く湿気が少ないこと この上なくよいこと すばらしいこと 欠点についてあれこれと批判・非難すること
159	溝渠 撤せられず 先ち 是認 茲に 和熟 建議 囁々 百方 慰撫 恬として 強剛 左れど 縦令 殺風景 裡に	コウキョ テッセラレズ サキダチ ゼニン ココニ ワジュク ケンギ ゴウゴウ ヒヤツポウ イブ テントシテ キョウゴウ サレド タトエ サップウケイ ウチニ	気持ち・心のへだたり 取り除かれず 前もって よいと認めること ここに 仲よく親しみ合うこと 和解 意見を申し立てること 口々にうさく言いたてるさま すべての方面 あらゆる手段 なぐさめいたわること 気にかけないで平然として 強くて屈しないこと しかし もし…だとしても おもしろみも飾りけもなく、興ざめがすること まっただなか 中
160	曩に 虞れ 將又 不能 加之 則ち 囑托 依	サキニ オソレ ハタマタ アタワズ シカノミナラズ スナワチ シヨクタク ヨリ	先に 以前に おそれ 心配 それともまた あるいはまた …できない そればかりでなく つまり 仕事を頼んで任せること 囑託 というわけで
161	開誘 情誼 知得	カイユウ ジョウギ チトク	教えみちびくこと 人とつきあう上での人情や誠意 知り得ること
162	愈 弹琴	イヨイヨ ダンキン	どうとう ついに 琴をひくこと
163	保姆 茲に 愈々 乍らも 稀 火鉢	ホボ ココニ イヨイヨ ナガラモ マレ ヒバチ	児童の保育にあたる女子職員の俗称 ここに どうとう ついに ではあるが 数少なくて珍しい 灰を入れ、中に炭火をおこして、暖房や湯沸かしなどに用いる道具
164	萎靡 尠し 茲に 奏せん	イビ スクナシ ココニ ソウセン	衰え、元気のなくなること すくない ここに 成果を得る

史料番号	字句	よみ	意味
	撃柝	ゲキタク	拍子木を打ち鳴らすこと 木槌を打って注意を集めること
	祝詞	ノリト	儀式など改まった場面で、神に祈るときに神前で唱える古体の言葉
	尋て	ツイデ	引続いて つぎに
	杯盤	ハイバン	酒席の道具
	献酬	ケンシュウ	杯をやりとりすること 酒を飲み交わすこと
	爰に	ココニ	ここに
	甚だ	ハナハダ	たいへん 非常に
	即	スナワチ	まさしく
	トし	ボクシ	選び定める
	諸れ	コレ	これ
	智識	チシキ	知識 知ること 認識・理解すること
	淵源	エンゲン	根源 みなもと
	豈	アニ	どうして…か
	忽に	ニワカニ	急に
	斯く	カク	このように
	擲ち	ナゲウチ	惜しげもなく差し出す
	寔に	マコトニ	本当に
	美事	ビジ	美しい事柄 ほめるべきこと
	自今	ジコン	今からのち 今後
	盛興	セイキョウ	さかん
	欣喜雀躍	キンキジャクヤク	こおどりして喜ぶこと
	賀して	ガシテ	祝って
	聊	イササカ	すこし
	蕪辞	ブジ	自分の言葉や文章をへりくだっていう語
	忝ふし	カタジケノウシ	もったいない 恐れ多い
	賜ふ	タマウ	いただく
	祝規	シュクキ	祝いの中に戒めの意を含めたこと
	顧ふ	オモウ	思うに
	当路	トウロ	重要な地位についていること
	尽すと否さる	ツクストイナザル	尽すと尽さないこと
	贊襄	サンジョウ	助けて事を行うこと
	補翼	ホヨク	輔翼 助けること 補佐
	蓋し	ケダシ	まさしく たしかに
	世運	セイウン	世の中の成り行き
	益	マスマス	さらに
	繁多	ハンタ	用事が多く忙しいこと
	而して	シコウシテ、シカシテ	そして また それから
	能く	ヨク	よく 十分に
	不肖	フショウ	未熟で劣ること 自分のことをへりくだっていう
	励精	レイセイ	精を出して励むこと
	完ふせん	マツウセン	完全に終らす
165	客年	カクネン	去年 昨年
	茲に	ココニ	ここに
	差支	サシツカエ	支障
	慈恵	ジケイ	慈愛の心をもって他に恵みを施すこと
	凡	オオヨソ	だいたい
	赤貧	セキヒン	きわめて貧しくて、何も持っていないこと
	伝習	デンシュウ	教えを受けて習うこと
	概目	ガイモク	おおよその項目
	叭	カマス	わらむしるを二つ折りにし、縁を縫いとじた袋
	菰	コモ	マコモを粗く編んだむしろ
	手箒	テボウキ	片手で使う柄の短いほうき
	草履	ゾウリ	底が平らで、鼻緒をすげてある履物
	草鞋	ワラジ	わらで編んだ草履状の履物
	修身	シュウシン	旧制の小・中学校の教科の一つ 教育勅語をよりどころとする道徳教育を授けたもの
	石盤	セキバン	石筆で文字や絵をかく板、学用品として用いられた
	硯	スズリ	すずり
	算盤	ソロバン	そろばん
	石筆	セキヒツ	蠟石(ろうせき)を加工して鉛筆状につくったもの 石盤に文字や絵をかくのに用いる
	可成	ナルベク	出来るだけ
	遅参	チサン	時間に遅れてくること
	見做し	ミナシ	みなす
	乞食	コジキ	こじき ものごい
	禁制	キンセイ	ある行為を禁じること
	釀集	キョシュウ	金品を出し合って、集めること
	義捐金	ギエンキン	慈善や被災者救済などの趣旨で差し出した金銭
	訓導	クンドウ	旧制小学校の正規の教員の称

史料 番号	字句	よみ	意味
166	督責 答申 県令 徳義心 聊 廿 励行 附托 委托 所以 乞う 如何 卅 副伸 余所事 不穩当 異見	トクセキ トウシン ケンレイ トクギシン イササカ ニジュウ レイコウ フタク イタク ユエン コウ イカン サンジュウ 副申【フクシン】 ヨソゴト フオントウ イケン	厳しく督促すること 諮問を受けた事項について行政官庁に意見を具申すること 県知事の発した命令 徳義(人として守るべき道徳上の義務)を重んじる心 ほんの少し わずか 20 決められたことをその通りに実行すること 物事の処置などを任せること 人に頼んで代わりにやってもらうこと 理由 求める 願う どのようなもの とうですか これていいですか 30 官庁が申請書やその他の文書を上級機関に伝達するとき、その文書に対して参考意見を述べること 自分とは関係のないこと 他人ごと さしさわりがあって適当でないこと 異なった見解
167	黜し 由来 所謂 督励 遺憾 稟請 狹隘 打算 曩に 茲に 佳良 仍て 統督 而して 転免 然して 俸給 加俸 具ふる 躡け 殆ど 稀 強健 等閑 罹病者 須要	スクナシ ユライ イワユル トクレイ イカン リンセイ キョウアイ ダサン サキニ ココニ カリョウ ヨツテ トウトク シコウシテ、シカシテ テンメン シカシテ ハウキユウ カハウ ソナウル シツケ ホトンド マレ キョウケン トウカン、ナオザリ リビョウシャ スヨウ、シュヨウ	少ない もともと 元来 世間一般に言われる 監督し、励ますこと 期待したようにならず、残念に思うこと 上役や上部機関などに申し出て請求すること 面積などが狭くゆとりがないこと 損得を考へること 前に 以前に ここに すぐれていること そのために それゆえ まとめて取り締まること そして また それから 転任と免任 そして それから 給料 公務員に支給される、諸手当を除いた基本的給与 本俸以外に、職務の性質や地域の特殊性などによって特別に付加される俸給 設備や装置を用意しておく 行儀 作法 礼儀 おおかた 大部分 非常に少ない からだが強くて丈夫であること いいかげんにしておく 本気でない 病気にかかっている者 なくてはならないこと
168	支弁 夫れ 治国 要道 燎原の火 観る 因て 所以 而して 尽瘁 感化 善導 言を俟たず 繋つて 双肩 然れば 即ち 慰藉 励精 為政者 須叟 要諦 曩日	シベン ソレ チコク ヨウドウ リョウゲンノヒ ミル ヨリテ ユエン シコウシテ、シカシテ ジンスイ カンカ ゼンドウ ゲンヲマタズ ツガナツテ ソウケン シカレバ スナワチ イシャ レイセイ イセイシャ 須叟【シュユ】 ヨウテイ ノウジツ	金銭を支払うこと 文の初めに用いて、新たに説き起こすときに用いる語 そもそも 国を治めること 大切な教え 勢いが盛んで防ぎ止められないものたとえ 見る …ために 理由 そして また それから 自分の労苦を顧みることなく、全力を尽くすこと 考え方や行動に影響を与えて、自然にそれを変えさせること よいほうへ教え導くこと 言うまでもない つながって 責任や義務を負うものたとえ そうであるから だから つまり なぐさめいたわること 精を出して励むこと 政治を行う者 しばらくの間 物事の最も大切なところ さきの日 昔

史料 番号	字句	よみ	意味
	慇懃 洵に 斯る 俸給 而も 其当 偶々 能はざる 茲に 彼の 吏員 資 冀望 況んや 殆んど 底止 遺憾 嘆咨 蓋し 尠少 故 刻下 聞説 官吏 累次 本給俸 更定 益 世運 趨勢 方に 齊しく 鞅掌 并に 均霑 請願 緊要 渴望 智徳 涵養 方今 稽へ 等閑 不肖 衷情 冀くは 採納 誠惶 頓首	ショウヨウ マコトニ カカル ハウキョウ シカモ ソノアタリ タマタマ アタワザル ココニ カノ ライン モトデ キボウ イワンヤ ホトンド テイシ イカン タンシ ケダシ センショウ ユエ コッカ キクナラク カンリ ルイジ ホンキョウホウ コウテイ マスマス セイウン スウセイ マサニ ヒトシク オウショウ ナラビニ キンテン セイガン キンヨウ カツボウ チトク カンヨウ ハウコン カンガエ トウカン、ナオザリ フショウ チュウジョウ コイネガワクバ サイノウ セイコウ トンシュ	そうするように誘って、しきりに勧めること 本当に このような こういう 給料 公務員に支給される、諸手当を除いた基本的給与 その上 そのへん 偶然に 時たま …できない このとき あの 例の 公共団体の職員 資金 元手 のぞみ願うこと 希望 まして なおさら おおかた 大部分 行きつくところまで行って止まること 期待したようにならず、残念に思うこと なんと嘆かわしい まさしく たしかに 非常に少ないこと わけ 理由 ただいま 目下 聞くには 役人 重なり続くこと たびたびあること 基本給 あらため明らかにする さらに 世の中の成り行き 社会などの、全体の流れ あたかも 同様に とともに 忙しく立ち働いて暇のないこと 並びに および また 平等に恩恵や利益を受けること こいねがうこと 非常に重要なこと 差し迫って必要なこと 心から望むこと 知恵と人徳 無理をしないでゆつくりと養い育てること まさに今 このごろ 考え いいかげんにしておく 本気でない 未熟で劣ること 自分のことをへりくだっている うそやいつわりのない、ほんとうの心 切に望むことは 採用すること 取り上げること (心からかしこまる意) 手紙の終わりに添えて敬意を表す語 手紙文の末尾に書き添えて、相手に対する敬意を表す語
169	支弁 俸給 建議 請願 延て 凡そ 由来 纒に 私かに 小職 愧 遺憾 惟ふに 諒 微衷 酌量	シベン ハウキョウ ケンギ セイガン ヒイテ オオヨソ ユライ ワズカニ ヒソカニ ショウシヨク ハジ イカン オモウニ リョウ ビチュウ シャクリョウ	金銭を支払うこと 給料 公務員に支給される、諸手当を除いた基本的給与 意見を申し立てること こいねがうこと 次いで また 更に だいたい もともと 元来 かろうじて やつとのもので こっそり 官職についている人が自分をへりくだっている語 恥 期待したようにならず、残念に思うこと 思うに もつともであること 自分のまごころ・本心をへりくだっている 事情をくみ取って、処置・処罰などに手ごころを加えること
170	卒へ 須要	オエ スヨウ、シュヨウ	終了し なくてはならないこと

史料番号	字句	よみ	意味
	時宜	ジギ	時がちょうどよいこと 適当な時期・状況
171	予て 愈よ 進運 尤も	カネテ イヨイヨ シンウン モットモ	以前から 前から とうとう ついに 進歩・向上していく機運や傾向 まったく 当然
172	須要 女徳 本科 補習科 専科 皇后陛下御誕生日 廿 卅 修身 刺繡 前後 生花 茶技 裁方 繕方 縫方	スヨウ、シュヨウ ジョトク ホンカ ホシュウカ センカ コウゴウヘイカゴタン ニジュウ サンジュウ シュウシン シシュウ ゼンゴ イケバナ チャギ タチカタ ツクロイカタ ヌイカタ	なくてはならないこと 女性として身につけておくべき徳 予科・別科・専攻科などに対し、その学校の本体をなす課程 一定の課程の修了者に、その学習内容をさらに深く習得させるために設けられる課程 専門の分野だけを特に学ぶ課程 地久節(大正時代:貞明(ていめい)皇后)6月25日 ジョウビ 20 30 旧制の小・中学校の教科の一つ 教育勅語をよりどころとする道德教育を授けたもの 刺しゅう 前後 生け花 茶の湯のわざ 布地を裁断する方法 衣服の補修の方法 衣服の縫う方法
173	過日 吾々 克く 遺憾 茲に 等閑 而して 副申 進達 日子 已を得さる 通牒 爾来 再考可相成趣 移牒 兎に角 取斗はれ度 懇請 具に 亘る 抵触 懇に 不得已 而し 現今 詮衡 梗概 而し乍 由々敷 万不得止 呉れれば 悠々	カジツ ワレワレ ヨク イカン ココニ トウカン、ナオザリ シコウシテ、シカシテ フクシン シンタツ ニッシ ヤムヲエザル ツウチョウ ジライ サイコウアイナルベキムネ イチョウ トニカク トリハカワレタク コンセイ ツブサニ ワタル テイショク ネンゴロニ フトクイ シカシ ゲンコン センコウ コウガイ シカシナガラ ユユシキ バンヤムヲエズ クレレバ ユウユウ	せんだって 先日 我々 十分に 期待したようにならず、残念に思うこと ここに いいかげんにしておく 本気でない そして また それから 官庁が申請書やその他の文書を上級機関に伝達するとき、その文書に対して参考意見を述べること 下からの書類を取り次いで上級官庁に届けること 日数 仕方がない 通達の旧称 それ以来 再考なされるわけ 管轄の違う他の役所などへ文書で通知すること いづれにしても 取り計らってもらいたく 心を込めてひたすら頼むこと 詳細に 及ぶ 法律や規則に反すること 心がこもったさま 不得意 しかし いま 現在 選考 えらぶ あらまし 大略 しかしながら 容易ならない すべてのことがどうしようもなく …くれたら ゆったり落ち着いた
174	時世 進運 緊切 屢 愈々 茲に	ジセイ シンウン キンセツ シバシバ イヨイヨ ココニ	時とともに移り変わる、世の中 進歩・向上していく機運や傾向 差し迫って大切なこと たびたび ついに ここに
175	具し 冗長	グシ ジョウチョウ	そろろ 文章・話などが、むだが多くて長いこと
176	御認可被成下度 時世	ゴニンカナシクダサレタク ジセイ	認可していただきたく 時とともに移り変わる、世の中

史料 番号	字句	よみ	意味
	進運 拘らず 狭隘 熾烈 輿論 趨勢 遷延 加之 不得止 本科 補習科 按配	シンウン カカワラズ キョウアイ シレツ ヨロン スウセイ センエン シカノミナラズ ヤムヲエズ ホンカ ホシュウカ アンバイ	進歩・向上していく機運や傾向 …であるのに 面積などが狭くゆとりがないこと 勢いが盛んで激しいこと 世間一般の人の考え 世論 社会などの、全体の流れ のびのびにすること そればかりでなく しかたがなく どうしようもなく 予科・別科・専攻科などに対し、その学校の本体をなす課程 一定の課程の修了者に、その学習内容をさらに深く習得させるために設けられる課程 物事のぐあい・ようす・程合いを考えて、程よく並べととのえたり処理したりすること
177	爾来 坪	ジライ ツボ	それ以来 土地の面積の単位 1坪は6尺平方で、約3.3平方メートル